

日程	平成29年5月17日(水)～5月19日(金)
視察先:視察内容	①埼玉県熊谷市:子育て応援プロジェクトについて ②長野県佐久市:立地適正化計画について ③富山県高岡市:日本遺産認定について

①埼玉県熊谷市:子育て応援プロジェクトについて

概要 人口198,639人 人口増加率マイナス1.06%
人口比率(年少12.79% 生産年齢65.18% 老年21.74%)

6月の国内最高気温39.8℃ 9月の国内最高気温39.7℃を記録。
東京都心から50～70kmに位置し、ほぼ平坦で荒川や利根川の水に恵まれた自然環境を有する。中山道の宿場町と栄え、現在も鉄道と主要幹線道路が集中する交通の要所。
2019年開催のラグビーワールドカップ開催都市。

視察内容 「子育てするなら熊谷市」と掲げる熊谷市に子育て応援プロジェクト内容を視察した。
熊谷市ファミリーサポートセンターでは援助活動の主な内容に
①保育施設の開始前および終了後に子供を預かる
②保育施設までの送迎を行う
③学校の放課後や学童保育所の修了後子供を預かる
④その他一時的な事情の際に子供を預かる
これらの内容は依頼会員と援助会員をファミリーサポートセンターがマッチングする。
利用料金はファミリーサポートセンターが定め、依頼会員と援助会員とのやりとりになる。
会員同士が一時的な育児を地域の中でお互い助け合う援助活動を行っている。
また病児等緊急サポート事業においては、「子供が急に熱を出した、でも仕事は休めない」「急な残業」「出張」等の際に緊急サポートセンター埼玉経由で利用できる。
両事業のアンケート調査報告書の分析も行っている。

ファミリーサポート事業について

現状 ・認知度は会員未登録者において56%。
・会員登録者の中で利用経験がない人は58%。
・利用料金は1時間700円であり、アンケートでもほぼ適正価格とのことだが、400円程度になった場合の利用回数が増えるとの回答は71%。
・ニーズとして子供が3歳未満の年齢が56%、状況として保護者の病気等39%送迎と時間外保育が34%、曜日については平日が58%、時間帯は8時～12時と16時～19時をあわせて62%、利用時間は1～3時間で57%。



課題 手続きが面倒との意見もある中、簡易な手続き方法を模索している。
預ける側からの不安の声もあり、援助会員の育成に対して養成講座を行うなどの対応をしている。また妊娠時の家事援助や育児相談へのニーズも高いことから、対処方法を検討中。

病児等緊急サポート事業についてー I

現状 ・会員未登録者において認知割合は29%、会員登録者の中で利用経験がない人は92%
・利用料金は1時間1000～1200円で宿泊を伴う預かりは10000円であるが、アンケートでは妥当な価格は1時間800円未満と答えた人が78%、宿泊5000～7000円が46%5000円未満が42%であり、割合との結果がでた。
・ニーズとしては6ヶ月以上～就学前が75%、状況は急な子供の病気等で73%、曜日は平日が60%、時間帯は8～12時が43%12～19時が29%ちなみに宿泊2%、利用時間は2～4時間51%4時間以上25%。

病児等緊急サポート事業について－Ⅱ

現状 ・預かり場所の希望は利用者宅51%、サポート会員宅33%。その他では公共施設での預かり希望の意見もあった。

課題 認知度が低く、有効な利用促進の検討が必要。
利用料金に関しては、必要性を感じてもらえるよう対策を講じ、ファミリーサポートとの違いを踏まえ、利用促進策と併せての検討が必要。



所感 共働き家庭において、手軽なベビーシッターのような優れたサポート事業であると考え。ベビーシッター事業に行政が入る事は、ベビーシッターに慣れていない人にも安心感があるように思われ、良い事だと思う。しかし、行政が中に入るとはいえやはり個人対個人での問題もあり、利用しない理由に「預けるのが不安」という意見も少なくない事は理解した。

病児等緊急サポート事業に関しては、病状の悪化した場合等にも焦らず対応できる子育て経験者や会員養成講座をしっかりと行う必要があると感じた。病気の回復期にあるものの集団保育が困難である児童対象の病後児保育との切り替えや医師が常駐する環境での預かりなど、内容の充実が必要である。

岡崎市においてもファミリーサポートセンター事業は行われている。依頼会員、援助会員ともに増加していると聞いた。就学前児童の利用に関しては5年間で約2倍になっている。依頼会員の数の増加より援助会員の増加が少ないのが気になる所ではあるが、同様の取り組みを行っている。地域での子供の育成ボランティアは数多く聞かすが、まだまだ認知が足りないように思える。特に援助会員は元気な高齢者などの掘り起こしも可能ではないかと考える。

岡崎市では放課後こども総合プランが大変充実しており、放課後こども教室や放課後児童クラブとの連携でのファミリーサポートセンター事業のが認知されやすいうえに援助会員同士のつながりもできると思う。

適正なニーズを聞き、岡崎市の現状に即した施策の提言を考えていきたい。



②長野県佐久市:立地適正化計画について

概要 人口99,416人 人口増加率マイナス1.13%
人口比率（年少14.32%生産年齢59.68%老年35.84%）
ホームページでの移住促進「空き家バンク」において成約件数日本一
長野県東部の高原都市。千曲川が貫流し耕地を形成。上信越自動車道や北陸新幹線が整備され、中部横断自動車道の建設も進むなど、首都圏と日本海圏、太平洋圏を結ぶ地域連結軸の結節都市。

視察内容 ・佐久市では今後の人口減少と高齢化が進出し人口集中地区(DID)の面積がほぼ横ばいの一方DID内の人口密度は低下している。
一定の人口集積に支えられた医療・福祉・子育て商業・公共交通等の生活サービス機能が成立することが困難となり、現在の暮らしやすさが損なわれてしまう恐れがある。
郊外において自動車を運転できなくなった高齢者等の交通弱者は、自立した日常生活を送る事が困難になる恐れがある。
・拡散型の都市構造から集約型の都市構造への転換が必要であり、立地適正化計画策定に至る。



・佐久市は一市三町が合併し、旧町村の中心地をそれぞれの地域の核として、市街地や集落が形成される多角構造となっていることから、それぞれの地域の強みを生かした「機能集約」と「まちのネットワーク化」を実現するための下地が整っている。

・今後の行政において、社会保障費の増大と税収減により財政状況が厳しくなるため、立地適正化計画において将来的にも持続可能な都市を目指している。

・市民アンケートによれば、便利なエリアに住みたいと回答した人が51.7%で多いものの、不便だが静かな郊外エリアに住みたいと回答した人も36.2%おり、居住地を選択する際のニーズの多様化がある。

・まずは拠点の中心を設定し都市機能誘導区域を設定する。
・拠点核から800m圏内(徒歩圏内)の用途地域に、生活圈人口規模を考慮し、医療・福祉商業施設と居住誘導を行う。
・現存する施設は誘導項目のなかでは「済み」の扱いで集積状況を分析し、今後誘導が必要な施設、必要な公共サービスを取り組んでいく。
・基幹公共交通の徒歩利用圏内に都市基板整備等の投資区域とし、かつ生活サービス施設が充実し生活利便性が高い地域を居住誘導区域とする。(その際に工業系用途地域と災害警戒地域は除く)
・用途地域外に関して、デマンドタクシーにより地域拠点やコミュニティ拠点を結ぶ。以前のバス路線は補助金の増加により廃止した。

・佐久市の場合、北陸新幹線開通による佐久平駅ができたことによる都市計画と立地適正化計画が都市再整備計画へと大きく事業化している。
20年後を見据えての評価基準(人口密度・二次三次医療を担う医療機関の立地数・公民館地区館の立地数)の指標を定めPDCAを行う。あわせて公共交通利用者数と収支の目標もさだめている。



②長野県佐久市:立地適正化計画について

所感 立地適正化計画は都市計画を現実路線で実行するための重要な計画であり、岡崎市における立地適正化計画を理解した上での所感を求められる。
岡崎市では平成26年度より立地適正化計画への取り組みを開始し、中心市街地の人口減少が顕著であることや市域全体では生活利便性維持のための様々な課題を有する事が明らかになっています。

(1)土地利用(ゾーン)

土地利用や地形をふまえ、既存市街地を中心にして、都市環境と自然環境が調和した都市構造を目指す。

(2)拠点(都心・地域拠点・交流拠点・地区拠点)

鉄道駅等の交通結節点を中心にして都市機能を集約させ、それらの拠点が相互に連携・補完できるような効率的な都市構造を目指す。

(3)軸

自然・鉄道・道路にかかるものを設定し、鉄道軸は公共交通の要として拠点間を連絡し、拠点形成の重要な軸として設定する。

これらの設定のもとに、岡崎市都市計画マスタープランの基本姿勢の中でも、とりわけ今回は「コンパクトで持続可能な都市作り」を主要課題として考えていきます。

佐久市は市中央の南北を走る鉄道と主要道路を軸に拠点を設定している。
北部の新幹線佐久平駅からの誘導軸で、市の東西は山地で囲まれているので、誘導区域の設定は容易であると考えられる。
岡崎市の場合、JR.岡崎駅と名鉄東岡崎駅、二つの都市機能誘導区域が存在するのでそれぞれにそれぞれの都市コンセプトがないと、誘導しても効果が薄くなる。
佐久市より岡崎市に関する都市計画における立地適正化は難しいが、考えようによっては無限の可能性を持つ都市であるとも言える。

現状の都市構造の評価で「都市構造の評価に関するハンドブック」を用いて評価したところ人口同規模の県内都市(豊橋・一宮・春日井・豊田)との比較では各評価指標ともに偏差値50とほぼ同じ程度であり、県内都市の中では平均より上の評価であった。
一方、全国の類似人口規模の都市と比べると平均値をやや下回る状況にある。
都市構造が外縁に拡散していることが原因ではあるが、それぞれのエリアにそれぞれの住みやすさの魅力があるということでもある。
岡崎市の鉄道駅の乗降客数を調べてみても、この5年間では名鉄名電山中駅が年々減っているのを除き、毎年増加傾向にある。岡崎市においては駅周辺の整備が第一の取り組みにすべきで、現在着々と進んでいる計画を評価し、ソフト面での充実を図りたい。

また20年後の岡崎市を考える上で、現在自家用車での外出中心の世代が、免許返納等で自家用車生活から脱した時、バスの役割や駅周辺の施設の重要性が一気に高まるため、今後高齢者が多くなる地域を考え、計画や提言に取り組んでいきたい。

個人的な見解だが、愛知環状鉄道北岡崎駅は地域拠点として設定されていないが、岡崎環状線道路からの平針街道沿いには数々の高等学校・専門学校が建ち並び、歩行者も多く比較的まだまだ商店にも活気がある。
北部エリアのまちづくりの中心になり得る可能性もあり、立地適正化計画のひとつに加えていただくことを要望します。

日本全国には様々な立地適正化計画があり、佐久市だけでなく、今後は岡崎市と同規模の自治体の事例を学び、「コンパクトシティ・プラス・ネットワーク」の推進を図りたい。

③富山県高岡市:日本遺産認定について

概要 人口172,256人 人口増加率マイナス2.17%
人口比率(年少12.36%生産年齢60.19%老年27.01%)

県西部の中核都市。2015年3月に北陸新幹線新高岡駅開業。
国宝瑞龍寺等の歴史資源、ものづくりや万葉などの文化資源をつなぐ「文化創造都市」

視察内容 城下町を源流としながら町民が主体となって
発展をとげた珍しい歴史性を「町民文化」
としてストーリー化し提案し、文化庁が創設
した「日本遺産」の第一弾として認定された。

ストーリーの展開

- (1)150日で高岡城を築城、しかし6年で廃城。
・前田家二代目当主俊長により異例の早さで
城下町として発展したが一国一城令により
廃城で城下町は消滅しかけた。
- (2)武士のまちから町民のまちへの大転換
・存続の危機に三代目利常が商業都市化の
ための商業政策を次々と打ち出す。
- (3)「加賀藩の台所」として隆盛を極めた高岡
・利常の保護と期待に応え、商人・職人のまちとして歩み始める。やがて物資の集散地と
なり、財を成した豪商が中心になり豪華な装飾をまちごとに競い合う御車山祭が行われる
- (4)町民の心意気と、ものづくりの魂をこれからも
・町民自身が担い手となり、地域に富を還元してきたことにより、近代以降明治の文明開化
の変遷を経ても、町民は商売の実力を存分に発揮。そして現代に至る。



瑞龍寺(国宝)



前田利長公墓所(国指定遺跡)



・高岡駅南徒歩10分。瑞龍寺の位置関係は、利長公が居城した二上山森山城と墓所の
線上に高岡城が位置し、その延長線上は徳川家康公の岡崎城を指しているとされる。
瑞龍寺から俊長公墓所までの5分の間、八丁道にて遊歩道で行ける。



八丁道風景



八丁道沿いの小学校
(景観に合わせた建築)

③富山県高岡市:日本遺産認定について

視察内容 高岡古城公園(県指定遺跡)



高岡駅北東徒歩10分に日本三大大仏の高岡大仏。そこから徒歩5分で21万㎡の高岡城跡の古城公園(日本都市公園100選・桜名所100選・100名城・歴史公園100選)

高岡大仏(市指定文化財)



山町筋(国選定重要伝統的建造物群保存地区)



高岡駅北徒歩10分。
土蔵造りの町並みで現在でも商売をしている店やリノベーションによる新しい店もある信用金庫や郵便局も町並みに合わせた店構えで営業している。



金屋町(国選定重要伝統的建造物群保存地区)

山町筋より徒歩10分。
千本格子の家並み。高岡鑄物発祥の地。
前田利長公の産業復興の地。
石畳と木壁と千本格子の町並み。

所感

高岡駅から徒歩10分圏内で様々な歴史遺産を歩いてみてまわれる。市街地には路面電車と環状コミュニティバス、またレンタルサイクル200円で各施設からの貸し出しが行われている。「駅からちょっと町歩き」をキーワードに高岡散策の取り組みは、岡崎市の目指すまちづくりにも大いに参考になる取り組みと感じた。今回の視察においては「百聞は一見にしかず」で実際に歩いて日本遺産ストーリーと歴史とものづくりのまちを視察した。歴史まちづくりを推進する岡崎市において、東岡崎駅から歩き歴史遺産を巡る取り組みは必要であり、リバーフロント計画からのQURUWAの重要性を感じた。

高岡市は、ものづくりの技や華やかな祭りなど、町民たちによって文化が受け継がれ、その歴史物語は「加賀前田家ゆかりの町民文化が花咲くまち、高岡 人、技、心」として文化庁より日本遺産に認定されたことを踏まえ、岡崎市のストーリーを考察したい。また高岡御車山は400年の伝統を誇る国指定重要有形・無形民俗文化財であり、ユネスコ無形文化遺産にも登録されている高岡御車山祭には多くの市民・観光客が集う。

岡崎市においても歴史ストーリーは高岡市にひけは取らず、様々な点を線にして面にしていく必要がある。個人的な見解だが、高岡市は修学旅行など子供達にとっての楽しく周遊し、歴史と文化を勉強できる都市であると思った。私の思う岡崎市歴史まちづくりに、高岡市の町づくりが近く、参考にするべき項目が多い。高岡市ほど文化財等が市街地に密集していない事がネックではあるが、高岡市の国宝瑞龍寺の看板にでも見られた「徳川家康公と岡崎城」をもっと前面に押し出していくための方法や計画、岡崎市の歴史への誇り、また近隣都市からの旅行者が楽しく周遊できる施策を推進していきたい。

